

平成 17 年度歯学部 F D 活動報告書

2006. 04. 14

歯学部 FD 委員会

はじめに

平成 17 年度の歯学部 FD 委員会委員は仙波伊知郎、島田和幸、杉原一正、伴 清治である。歯学部では一昨年度から継続して学生による授業評価を行っているが、本年度は評価表の一部をさらに改良し、OCR による機械処理をより効率化し、事務処理の効率化を図った。アンケートの回収と OCR 処理は学務係で行った。専門教育の全ての科目で実施しているが、教科責任者に加えて多くの担当教員も実施し、また、昨年より更に多くの教員が複数回実施した。

昨年度と同様に目的指向型の教員の組織化の試みとして、共用試験 CBT 問題作成の過程を FD 活動として捉え、教員組織を編成した。その結果、作問した問題の採択率は極めて高いものとなった。

本年度は歯学部にとって重要な課題のうち 3 テーマについて、授業を直接担当している教員はもとより全ての教員が参加して検討し、問題点を共有すると共に、今後の授業や教育の改善に結びつく具体的な方略を探る事を目的として参加者は歯系教員の半数以上が参加してワークショップを開催した。

これらの活動を支援するために、学内サーバーを設置し、諸アンケートやシラバスデータの入力に活用し、また、情報発信用の Web サーバーも充実し、学生向けの e-learning の試行も支援した。

本年度は更に、最終学年における学修成果をあげ、きめ細かな学修指導を行うために、学生のグループ学習と学習を支援するグループ担当チューター教員を配置した。本年度の国家試験合格率は新卒者 100%であった。また、卒業時点での学生の教育に関する満足度や意見を聴取するためのアンケートも実施した。

第 1 節 学生による授業評価

■ 歯学部における学生による授業評価の概要

(1) 体制：歯学部 FD 委員会が年間の FD 活動計画の一環として行っている。

(2) 評価を受ける（実施する）時期：授業評価は各科目の授業終了時に適宜行っているが、本年度も複数回の実施も試みた。集計時期は前期終了時の 10 月頃と、後期終了時の 2 月頃で、年度末に全ての集計結果を取りまとめる。

(3) 方法：歯学部で作成した「授業に対する学生評価表」を用い、15 項目に亘って 5 段階評価をし、かつ、改善点や長所、短所についての自由記載をする。対象者は、その授業科目の担当教員であり、教授、助教授、講師である。無記名の評価表は学生クラス委員が集め、学務係へ提出し、OCR 集計処理後、さらに F D 委員会委員によって、内容の点検を行った後、当該教員へ戻される。教員は所見、感想などを記載し、より良い授業に向けての改善策を記入し、F D 委員へ提出後、報告書として取りまとめる。

(4) 結果の公開：教員の各項目の評価集計結果と所見、感想などのまとめを教育センターの報告書に掲載するとともに、学部内向けに詳細なデータを掲載した報告書を作成し、学生、教職員に配布するとともに、学務係に常備し、また、ネットワーク上でも掲載し、学部内に公開する。

(5) 評価結果をどのようにして反映させているか：各教員が評価結果について真摯に受けとめた上で、所見、感想などを明記し、さらに、これらをより良い授業のための改善策として公表することによって、授業に対する教員の自覚と自己効力感の醸成に役立てている。各教員のまとめの具体例を掲載した。

■ 学生による授業評価のまとめ

各教員のまとめには、学生による評価からクラス全体の傾向や個々の学生のコメントの中から具体的な問題点を読み取った結果が記載されており、この授業評価が一方向的なものではなく、双方向的な授業改善の一つの手段として機能していることが伺える。これは、学生もこの授業評価の意義を真摯に捉えているからに他ならず、教育の現場では、このような双方向的な信頼関係が無ければ、改善も進まないことを改めて認識する必要があるだろう。しかし、学生のコメント数が少なく、全員の意見の反映には及ばないことも確かであり、今後、さらに方法や内容を検討し、改善する必要がある。また、日常的な双方向性を実現するためにも、ネットワークによる双方向的な情報のやりとりも更に充実させたいと考えている。また、今回も予習復習の自己評価が低く、課外学習の在り方について対策をこうじる必要がある。

第2節 共用試験 CBT 問題作成を通じた FD 活動

■ 教員の組織化について

CBT 用の問題はコア・カリキュラムに準拠するが、コア・カリキュラムは教育の場面でも生かされなければならない指針の一つである。さらに、CBT 問題作成には相応の IT スキルが求められるため、本年度も継続して、学部教育委員会共用試験実施部会とともに、CBT 問題作成過程を歯学部 F D 活動の一環と捉え、教員を組織化した。各講座から一名のワーキンググループメンバーを選出し、グループを作り、全教員を対象とする FD 講演会と各グループ作業を行いながら、問題作成とそのブラッシュアップを行った。本年度は取りまとめ役となるタスクフォースを昨年に比し増やし、6 名とした。

■ CBT 作問活動のまとめ

詳細な実施経過は省略するが、本年度は約 4 か月間に及ぶ作業期間中、各グループでは毎週のミーティングとともに、日々、電子メールを用いた意見交換やファイルの転送を行い、スムーズに作業を進めた。FD 活動を実践するための教員の組織化には、明確な目標をもった、また、集中的な活動を行うほうが、明確な目標があるため、達成感が得られやすく、今後もこのような目的指向型の短期組織化を充実させたいと考えている。また、その成果として全国でも作問した問題の採択率は極めて高いものとなり、一定の成果をあげたと言える。さらに、この共用試験に対応した歯学特別講義を設け、実質的なカリキュラム改善にもつながった。

第3節 歯学部 F D ワークショップ

■ 歯学部 F D ワークショップのテーマ

今回は歯学部にとって重要な課題のうち以下の 3 テーマについて、授業を直接担当している教員はもとより全ての教員が参加して検討し、問題点を共有すると共に、今後の授業や教育の改善に結びつく具体的な方略を探る事を目的としてワークショップを開催した。

テーマ 1：学生による授業評価を教育改善につなげるための具体的な方法の検討。

テーマ 2：教育成果（進級、国家試験等）を改善するための具体的な方法の検討。

テーマ 3：授業公開・参観による授業評価を実施するための具体的な方法の検討。

これらのテーマに関するグループ討議と全体発表会を行ったが、事前に FD 委員会から以下のような論点の整理を行い、限られた時間での討論の論点が発散し、まとまりのないものになることを避ける工夫をした。

■ テーマ１：学生による授業評価を教育改善につなげるための具体的な方法の検討。

学生による授業評価は「評価」という事に関して、そもそも学生に評価する能力があるのか、といった議論や、授業は誰が「評価」出来るのか、といった絶対的な「評価」の可能性が問題にされる事もあります。「評価」という言葉を使わずに「アンケート」を用いる場合もあります。しかし、学生による授業評価を行う目的は授業改善にあり、その評価内容が教員の個人評価に直結するものではありません。教育改善に結びつけるための方法の一つです。

教育改善に関する活動を教員が行っているか否か、という活動性については個人評価の対象にもなるのですが、最も大切な事は、その様な活動によって教育改善が実際に成されている、あるいは教育改善に結びつく活動になっている、という事です。今回は、「評価」の可能性ということより、学生による授業評価を教育改善に結びつけるための、具体的な方法について検討して頂きたいと思います。

また、学生による授業評価は学生との双方向的な授業を実現するための手法の一つでもあります。双方向的な授業を実現するためには、一方向になりがちな講義だけの授業形態だけでなく、多様な授業手法を持つ事が必要でしょう。その様な手法としてコミュニケーションツールの開発も必要でしょう。この様な観点からも、現在歯学部で行っている学生による授業評価の方法の改善についても検討して頂きたいと思います。

■ テーマ２：教育成果（進級、国家試験等）を改善するための具体的な方法の検討。

本来の教育の成果は、単に留年率や国家試験の合格率などだけで計れるものではありません。しかし、第三者からは表面的結果とはいえ数字で表され、判り易いことから、常に取り上げられる数値です。共用試験や国家試験など、全国共通の比較可能な試験制度を持つ医歯薬系の学部では、学部教育が受験塾と化しても良いのか、本来の教育を目指してこそ各試験もクリアでき、初めから試験だけを考えていては元も子もなくなるのではないかなど、現実的な結果と目指すべき教育目標との間での、様々な葛藤があります。

また、入学時の成績は、これらの資格試験の結果とは必ずしも相関せず、入学後の教育に問題があると考えられています。現在の入試制度では、入学後の学修力を十分に計れていないのではないかなという問題もありますが、今回は入学選抜方法ではなく、入学後の教育について検討して頂きたいと思います。一方、学生総数が少ない歯学部では少人数の留年等でも、これらの数値が大きく変動します。70-80%の学生は現在でも成果を挙げているのですが、問題は100%にならない所にあるとも云えます。多様な学生に対応するためのきめ細かな教育方法についても検討して頂きたいと思います。

さらに、歯学部では今年度から6年生を対象に国家試験受験に対応する為にグループ学習・チューター制を試行していますが、入学後から卒業に至るまでの各教育課程での方法や、基本的な教育体制に関する事などについても検討して頂きたいと思います。

■ テーマ３：授業公開・参観による授業評価を実施するための具体的な方法の検討。

学生による授業評価と共に、教育改善の為に、教員による授業評価として、授業公開・参観の方法が検討されています。全学的にも教育研究評議会でも全学的実施義務が決定され、現在、教育センターFD委員会を中心に実施方法が検討されています。全学的に実施するとしても、教育現場である各部局（共通教育も一つの部局と考えられる）において実現可能な方法が検討されなければならないものと考えられます。

さらに、学生による授業評価と同様に、この様な活動を教育改善に結びつける為の方法も併せて検討する必要があります。授業のあり方には絶対的な、また、これが正解という様な画一的なものがある訳ではありません。しかし、現状を評価し、改善する活動を行う際には、目指すべき姿を描いて目標を持つことも大事だと考えられます。また、この目標は単一ではなく、複数の観点を持ち、多様な授業形態を実現する方法を開発、共有することが大事だと考えられます。

今回は、これまで歯学部では行われていない授業公開・参観について、実施するための具体的方法を検討して頂きたいと思います。実施する際の時期や点検、評価の方法など、いつ、誰が、どの様にして行うのか、という具体的な方法について、また、実施に伴う問題点について検討して頂きたいと思います。

■ ワークショップのまとめ

参加者は歯系教員の半数以上に当たる52名であった。附属病院での臨床に携わる教員も多いため、開催時間は18時から20時30分と時間外の遅い時間帯になったにもかかわらず、熱心な討議が為された。各授業責任者である教授もほとんどが参加するとともに、若手教員との教育に関する忌憚のない意見交換の場となり、各テーマに関する検討とともに、教員同士の教育に関する意識の向上と共通認識を持つ場となり、有意義なワークショップとなった。今後、この成果を次年度の活動の基盤として実際の活動に反映させ、計画、実施、検証、改善のPDCAサイクルを実現するきっかけとしたいと考えている。

第4節 最終学年におけるグループ学習とチューター制

■ 背景と実施体制

歯学教育の目的は歯科医学の重要性、独自性、また面白さを教授し、優れた歯科医学者を輩出することである。当然ながらこの中には人類愛に満ちた優秀な歯科医師を育成することも含まれる。昨今の大学評価がなされる中で、歯科医師国家試験の成績は常に注目の的となり、ともすればこの国家試験の合格率で各大学の教育が評価されることも少なくない。

本大学歯学部では、国家試験合格率が過去2年連続して国公立大学で最低であるという厳しい状況に陥った。最終学年に対する国家試験対策としては、4年前から卒業試験が導入されているが、過去2年についてはその効果は低かったと言わざるを得ない。このような状況下で早急な対策が望まれ、最終学年におけるグループ学習とチューター制度の導入が決定された。具体的には、6年生を臨床実習の班分けに準じて11のグループ(各班6名)に分け、各グループにチューターとして教員(助手)1名を配属するというものである。最終学年の6月にこの制度の導入を学生に告げ、各グループの担当チューターを発表してからは、それぞれのグループの方法で学習を進めてもらうこととした。従ってグループによっては毎日、あるいは週に1回全員集合してお互いに質問や解説を交えての学習を行い、その機会にチューターによる各学生の進捗度チェックが行われていった。

■ 成果と今後の課題

チューターのまとめ役は学部長主導で設置された教育推進諮問委員会の長が国家試験対策委員長として務めた。チューター間の指導要領についての打ち合わせおよび各グループの進行状況の報告は、チューター会議で適宜行われていった。当面の目標として全3回行われる卒業試験の各実施日までに達成すべき学習の範囲を決め、個々の学生への指導はチューターに任せるという方法を採用した。この制度を進めていく上での問題は、学生からの要求および教授会側からの要望が全てチューターに寄せられ、ともすればチューターの負担が大きくなり過ぎるという点である。各チューターの熱意、取り組みにも差があり、卒業時の学生アンケートにその点の指摘があった。

いずれにせよこの制度を導入した結果、今年の新卒生の国家試験合格率は100%という全国でも唯一の好成績を収めることができた。早速、本年度6年生に対するチューター制度を開始する予定である。しかし、将来的には教員がチューターを務めるのではなく、学生自らが主導するグループ学習を教員が支援する形態をとるのが望ましいと思われる。また

グループ分けについては常に行動を共にする臨床実習の班分けを元に行ったが、グループ間で学生の実力に偏りがあったためチューターの負担も様々であった。今後はグループ分けのためのプレテストの実施、各グループのリーダーの選出も重要な課題であると思われる。

第5節 卒業時学生アンケート

■ 実施方法と結果

歯学部卒業式会場においてアンケート用紙を配布し、17年度卒業生全員、61名を対象に実施し、48名分の回答を得た。以下の18項目について歯科医師になる立場で、「5点：極めて有効、4点：どちらかといえば有効、3点：どちらとも言えない、2点：どちらかと言えば無意味、1点：全く無意味であった。」の評価を集計した。

項目(結果):合宿オリエンテーション(3.48)、共通教育(3.30)、専門・導入系科目(3.62)、専門・基礎系科目(3.81)、専門・臨床系科目(4.42)、専門・医系科目(3.69)、専門・臨床実習(4.33)、専門・選択科目(3.85)、共用試験C B T(3.49)、共用試験O S C E(3.69)、卒業試験(3.46)、チューター制度(3.71)、課外活動サークル等(4.11)、学術情報基盤センター(3.50)、図書館(4.50)、学習室(1, 2示説室等)(4.23)、学生控室(4.19)、学務事務室(3.90)

■ 卒業時アンケートのまとめ

卒業時の意見としては、当然予測されたことだが、直接関係する事項(専門・臨床系科目、専門・臨床実習、図書館、学習室、学生控室)に、評価が4点以上の高い評価をしている。また、課外活動(サークル等)は精神的な支えとして重要な活動であることがわかる。一方、試験という評価をうけるC B T、卒業試験および1, 2年生時の経験となる合宿オリエンテーション、共通教育、学術情報基盤センターは3.5以下の低い評価となっている。合宿オリエンテーション、卒業試験、チューター制度など、教職員が苦勞して実施している行為に対する評価が比較的低いことに挫折感を覚えると同時に、一部の人は。歯科医師となるためではなく、国家試験に合格するための歯学部教育と解釈して答えていると推定されることが残念である。今後、この様な問題点に対応する改善策を考えて行きたい。

今後の展望

今後とも、全学的なFD活動や桜ヶ丘地区における医学歯学教育計画室との連携などとともに、現在進行しているカリキュラムの再編、シラバスの充実、教育スキルの向上などを実現するための支援策を含めた、より組織的な活動を一層、進展させなければならないと考えている。

(文責 歯学部FD委員会)

学生による授業評価集計結果 と自己分析評価や具体的に改善した点

平成 17 年（2005 年）

歯学部 FD 委員会

歯学部教員 各位

2005. 06. 28

歯学部 FD 委員会

H17 年度の学生による授業評価の実施についてのお知らせとお願い

今年度も昨年度と同様に、学生による授業評価を実施します。宜しくお願い致します。

1. 全学年の各科目とも「随時」「複数回」「担当教員全員」について行って頂きたいと思います。各教科責任者の教授は、宜しくお取り計らい下さい。
2. アンケート用紙は、OCR 処理を円滑に行うため、本年度から学務係で用意します。昨年度は各講座で印刷して頂いたものを用いましたが、微妙なずれが生じ機械読み取りに手間がかかりました。事前（一週間前位）に必要枚数を学務係にお知らせ下さい。
3. 実施時に「無記名であるが、歯学部学生として責任有る評価をして欲しい」旨を事前に説明し、コメントをできるだけ記入するように、ご指導ください。
4. 実施方法はこれまでと同様にクラス委員を通じて回収し、学務係に提出させて下さい。その後、FD 委員会から集計結果を個別に随時お知らせしますので、自己評価や改善点などについてのコメントを付して、返信して下さい。なお、この集計結果と自己評価等は、年度末に報告書として匿名で公開します。

前期授業も終盤を迎えている頃と思います。宜しくお願い致します。

なお、不明な点は、下記 FD 委員会委員へお尋ね下さい。

歯学部 FD 委員会

仙波 (semba@dentb.hal.kagoshima-u.ac.jp、内線 6140)
伴 (sban@denta.hal.kagoshima-u.ac.jp、内線 6170)
杉原 (sugihara@denta.hal.kagoshima-u.ac.jp、内線 6230)
島田 (kshimada@dentc.hal.kagoshima-u.ac.jp、内線 6110)

学生による授業評価票

歯学部 FD 委員会

2	0	0	年		月		日	科目名：	対象教員名：
---	---	---	---	--	---	--	---	------	--------

※ OCR 処理をしますので、丁寧に枠内に記入し、(数字)を塗り潰して下さい。紙を折らないで下さい。
 ※ 記入後、クラス委員が集め、学務係（歯学部担当）に提出して下さい。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
この授業の予習・復習を行ったか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	
	(常に十分に 行った)	(良く 行った)	(普通に 行った)	(たまに 行った)	(全く しなかった)	

■ 対象教員の授業に関する事項

項 目	5: 極めて 優れている	4: 良い	3: 普通	2: やや劣る	1: よくない
シラバスに沿った授業がなされたか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
授業の準備がよくなされていたか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
教材(プリント, スライド, 教科書, 参考書, 板書等)は適切であったか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
実習器具・材料は適切であったか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
実習は授業内容の理解に役立ったか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
質問や学生による発表の機会を与えられたか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
質問をしやすい雰囲気であったか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
学生にとって適切な難易度であったか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
学習意欲が刺激されたか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
教育に対する熱意が感じられたか	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
総 合 的 な 評 価	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

本教員に 改善して もらいた い点を含 め、授業 の長所・短 所について 記載して 下さい。	

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 7 月 26 日、提出枚数：56

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	1
この授業の予習・復習を行ったか	1.7

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.3
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.2
授業の準備がよくなされていたか	3.4
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.4
実習器具・材料は適切であったか	3.2
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.1
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	2.8
質問や学生による発表の機会を与えられたか	2.9
質問をしやすい雰囲気であったか	2.6
学生にとって適切な難易度であったか	3.3
学習意欲が刺激されたか	2.8
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.1
教育に対する熱意が感じられたか	3.7
総合的な評価	3.2

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

本年度は前年度の反省を踏まえて、全く新たに講義の準備をしなおし、かなりの時間を割いたが、それに対し評価が大変分かれ、平均として予想外に低い評価に驚いている。ただ学生の自由記述において、「必要且つ重要な内容であった、非常に適切な内容であり、興味深かった」という評価も幾つかありほっとしている。シラバスの内容を何度か変更したことは、次回から改めるつもりである。講義態度として質問をしやすい雰囲気ではなかったという評価は心外であるが、もっと全員の性格を把握すべきだったのであろう。話し方の癖である早口を改めるべきこと、時々思いつきで話すところも改めなければならないと反省した。複数回の講義において内容を多面的に考えられるように幾つかのテーマを講義したり、学生自身にテーマを提出させ発表させたりしたが、何を目的とした授業なのか説明不足であったことは改善すべきと考える。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 12 月 2 日、提出枚数：27

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	3
この授業の予習・復習を行ったか	2.4

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.8
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.7
授業の準備がよくなされていたか	3.6
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.3
実習器具・材料は適切であったか	3.5
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.6
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.6
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.1
質問をしやすい雰囲気であったか	4.4
学生にとって適切な難易度であったか	2.9
学習意欲が刺激されたか	3.2
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.7
教育に対する熱意が感じられたか	3.9
総合的な評価	3.7

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

昨年は学生による授業評価を3回受けたが、当該年度の学生に対して3回の意義が全く無いと思われたので、本年度は1回の評価を受けた。また、提出する評価表への記名を、任意であるが学生に求めたところ、6名(22%)が応じてくれ、しかも厳しいコメントや2以下の評価をしてくれた。これには本当に感謝したい。しかし、評価表の提出者数が全体の48%であったことは、学生の授業に対する関心度が良くも悪くも半分以下ということであり、少し失望した。評価の低い(2以下の学生数)項目は、難易度(33%)、学習意欲(19%)、教材(18%)であった。教材は配布プリントの紙代の節約など問題はあるが工夫したい。一方、評価の高い(4以上)項目は質問や発表の機会に関することであった。学生とのコミュニケーションを大事にしたいので、この点は来年度も意識したい。いずれにせよ学生の学習意欲をいかに高めるかは今後も課題である。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	3
この授業の予習・復習を行ったか	1.9

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.3
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.5
授業の準備がよくなされていたか	3.4
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.2
実習器具・材料は適切であったか	3.1
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.0
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.3
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.3
質問をしやすい雰囲気であったか	2.5
学生にとって適切な難易度であったか	3.1
学習意欲が刺激されたか	3.0
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	2.9
教育に対する熱意が感じられたか	3.1
総合的な評価	3.2

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

僅かな数の回答しか得られず、限定的な意見の聴取であった。アンケート実施に関して細やかな配慮が必要であると思われた。しかし、今回、新たに試みた特定の授業に対する率直な意見を得られた。多くは批判的な意見であったが、多様な学生への配慮を一層試みる必要を感じた。新たに質問に関する時間を設けたが、質問の仕方や質問を通じてのコミュニケーションのあり方について、教官と学生の双方が学び合わなければならないとも感じた。一方向になりがちな学生に対する批評、評価についてのコンセンサスの形成や、また、学生が授業に求めている事と教員が学生に求めている事の摺り合わせも、大事だと思われる。共用試験や国家試験などに対する効率的な受験対策を安易に求める学生に対して、より辛抱や修練が必要な学問や思索への意欲を高めるための方略は、単なる授業技術だけではなく、学生自らの気づきを生じさせる様な、各教員の人格的な高まりも必要なのだと、思われる。また、今回の試みを基にして、一層の授業方法の改善も図りたい。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2006年1月27日、提出枚数：43

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

回数	第3回	第2回	第1回
アンケート実施日	2006/1/27	2005/11/10	2005/10/20
提出枚数	43名	14名	32名
記入者の学年	3	3	3
この授業の予習・復習を行ったか	2.2	2.1	2.2

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.9	3.5	3.6
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.8	3.6	4.0
授業の準備がよくなされていたか	4.3	4.5	4.3
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.1	4.4	4.0
実習器具・材料は適切であったか	3.8	4.1	4.0
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.2	4.1	4.0
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.3	4.5	4.2
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.9	4.3	3.9
質問をしやすい雰囲気であったか	3.7	3.9	3.7
学生にとって適切な難易度であったか	3.4	3.6	3.7
学習意欲が刺激されたか	3.6	3.7	3.8
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.4	4.1	4.1
教育に対する熱意が感じられたか	4.3	4.3	4.3
総合的な評価	4.1	4.2	4.0

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

計3回のアンケートを実施したが、当初の2回は回収率が低く、自由記載欄の記入もほとんどなく、ほぼ最終講義に近い時期に授業時間内に時間をとって3回目を実施した。それでも回収率は84.3% (=43/51) であった。意外にも3回の評価点は近接していたが、提出したい人だけ少数が提出した第2回の評価がもっとも高くなっていた。アンケートを提出しなかった学生の意見を聞きたいと興味がわくが、特定できないので、このアンケート方法の限界を感じてしまう。昨年までは、回収率で悩むようなことは無かったので、学生気質の変化ととらえざるを得ない。何事にも積極的に取り組まない風潮を残念に思う。

回収率が最も高い第3回のアンケート結果をもとに評価結果を分析する。第3回で自由記載欄に記入してあったのが、43名中16名であった。その内訳はパワーポイントの切り替え時間が早すぎる=7名、試験の難易度が高い=1名、実習レポートのダメな箇所の明確化=1名、実習と講義の組み合わせの要望=1名と批判的なものが10名、一方、良好な授業、画面が見やすい、パソコンによる試験が良いなどの賞賛的なものが6名であった。すべての評価点が昨年より0.1~0.6低く、平均で0.3低くなっており、自分の勉強不足を度外視しての批判と要望を感じざるを得ない。しかし、画面の切り替えについて、次年度は意識的にゆっくりするつもりであるし、このためには講義内容の充実する項目、削減する項目を見直す予定である。

「実験器具材料は適切であったか」が3回目に3.8と低くなったが、実習器具の不足、老朽化を反映している。器具の充実に努めていきたい。

「学生にとって適切な難易度であったか」が3.4と最も低い値であるが、これは、問題にする必要はなく、各自の学習態度と相反するものであると考えている。

「学習意欲が刺激されたか」が3.6と低いことが、最も残念に思う。昨年は4.2であった。この項目の差が最も大きい。この第3回のアンケート実施時期は実習を主に実施している時期であり、レポートを作成して提出することに疲弊している不満が点数にでているものと推定される。ただ、何らかの方策を考えてみたい。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2006 年 2 月 16 日、提出枚数：28

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	3
この授業の予習・復習を行ったか	2.0

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.4
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.3
授業の準備がよくなされていたか	3.8
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.6
実習器具・材料は適切であったか	3.4
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.5
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.2
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.2
質問をしやすい雰囲気であったか	3.3
学生にとって適切な難易度であったか	3.5
学習意欲が刺激されたか	3.2
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.7
教育に対する熱意が感じられたか	3.3
総合的な評価	3.4

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

理想とする評価には全く達していません。準備不足がその大きな理由と考えております。
今後最新の知見を取り入れて、魅力ある講義になるよう努力したいと思います。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2006年2月16日、提出枚数：28

歯学部FD委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	3
この授業の予習・復習を行ったか	2.1

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.5
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.8
授業の準備がよくなされていたか	4.2
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.2
実習器具・材料は適切であったか	3.5
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.6
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.8
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.5
質問をしやすい雰囲気であったか	3.7
学生にとって適切な難易度であったか	3.6
学習意欲が刺激されたか	3.7
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.9
教育に対する熱意が感じられたか	3.9
総合的な評価	3.9

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

評価の4.2を頂いた項目については、図やグラフを取り入れて作成したpower pintを用いた講義を概ね期待通りに学生諸君に評価して頂いた結果と考えている。今後も、新しい知見やより理解しやすい図を採用して、さらに品質の高い教材となるようにしていきたい。また、講義の進捗をシラバスに沿って理解しやすいようにするために、全講義の中で今どの段階にいるか、また、最終的に全体としてどのような体系にまとめられるのか講義内容ごとに説明するような工夫が必要であるかも知れないと考えている。また、これまで以上に学生諸君からの質問に注意して授業を進めて行きたいと思う。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2006年2月17日、提出枚数：29

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	3
この授業の予習・復習を行ったか	2.4

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.5
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.8
授業の準備がよくなされていたか	3.8
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.7
実習器具・材料は適切であったか	3.6
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.7
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.7
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.7
質問をしやすい雰囲気であったか	3.6
学生にとって適切な難易度であったか	3.3
学習意欲が刺激されたか	3.4
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.0
教育に対する熱意が感じられたか	3.7
総合的な評価	3.6

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

アンケートの提出枚数が少なく、また、コメント数も少ないのが残念であった。予習・復習の自己評価は、前回より幾分増加したが、未だに、低い値になっている。この点については、もっと授業時間以外に与える予習課題などの工夫をしたいと考えている。難易度と意欲の刺激の評点が低いが、コメントではより専門的な内容を求める者と、より判りやすい、平易な内容を求める者との相反が見られた。内容をどのレベルに置くかは、難しい判断であるが、内容をより多彩なものにして対応する工夫も必要だと考えられるので、今後、対応したい。授業や実習の内容を復習するための教材を求めるコメントも見られた。出来るだけ Web 等を利用した教材の開発を行いたいと考えている。シラバスに沿った授業に対する評点が低い、これは、後半で新たな実習授業の試みを追加した事が原因であるかも知れない。今後も、授業内容の変更はあり得るが、より早い時点で授業内容の変更と周知を行うことによって対応したいと考えている。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 7 月 5 日、提出枚数：53

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.4

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.5
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.9
授業の準備がよくなされていたか	3.9
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.7
実習器具・材料は適切であったか	3.5
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.8
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.9
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.5
質問をしやすい雰囲気であったか	4.1
学生にとって適切な難易度であったか	3.6
学習意欲が刺激されたか	3.6
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.0
教育に対する熱意が感じられたか	4.5
総合的な評価	3.9

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

昨年度の講義と比較して本年度は毎回の講義にキーワードを提示し、講義内容をより明確に提示したことは、改善点に挙げられると考える。学生の側からの評価で、質問や学生により発表の機会を与えられたという点と教育に対する熱意の点が比較的高かったので、これからもそれを維持していく心構えである。ただ授業態度として、授業中に話が飛ぶことが多いとか、話し方が威圧的だったとか、もっと冷静に落ち着いて話してほしいという点は長年習慣化したものであり、なかなか改善が厳しいが、多くのことを限られた時間の中で言おうとする意図とも関連しており、講義内容をもっと簡素化する改善が必要かと反省している。学生にとって適当な難易度であったかという評価が低く、普通以下の評価であることは、知識の詰め込みを良い授業と評価しているように見受けられ、これに対する対処の仕方を思案中である。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	-

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.5
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.3
授業の準備がよくなされていたか	3.8
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.5
実習器具・材料は適切であったか	3.5
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.4
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.3
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.0
質問をしやすい雰囲気であったか	3.2
学生にとって適切な難易度であったか	3.4
学習意欲が刺激されたか	3.2
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.9
教育に対する熱意が感じられたか	3.5
総合的な評価	3.5

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

1. 授業時間が長すぎる(9:00～12:10)のために、学生の緊張が持続できない。
改善するためには、授業時間の短縮が必要だと思われる。
2. 今年から、板書をなくし、より多くのデータを与えるために、プリントとプロジェクタの映写のみに変更した。また、当日に映写内容も渡したために、学生の緊張がかけた嫌いがある。次年度から映写内容は次の時間に配布する予定である。習熟度については、習熟度をはかるために質問やこちらからの問題提起を行ったが、講義と臨床の関係がまったく理解できないようである。そのために、臨床見学を取り入れたいと思っているが、5年生や6年生が見学しているために、取り入れる余地がない。
3. アンケートの意見が多岐に渡り、ある学生に評価されたところが他の学生に評価されないとの矛盾が生じているために平均値をとっても意味がない。ぜひ各評価項目についての学生のコメントを記入させるべきである。
4. アンケートは試験が終わった後に行わないと学生の本音が聞けないと思われる。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 9 月 13 日、提出枚数：56

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	1.8

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.3
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.2
授業の準備がよくなされていたか	3.4
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.5
実習器具・材料は適切であったか	3.3
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.1
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.1
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.1
質問をしやすい雰囲気であったか	2.6
学生にとって適切な難易度であったか	3.3
学習意欲が刺激されたか	2.9
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.2
教育に対する熱意が感じられたか	3.6
総合的な評価	3.2

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

教員の側の努力に対して、学生の見方がシビアだと感じる。又実習が無いにもかかわらず、実習に関する欄にも答えていることから、学生がよく熟慮をしないままアンケートに答えている印象がぬぐえない。来年度からは双方向教育を心がけ、学生に発表させ、いかに準備が大変かを実感し、相手のことを思いやることのできる機会を与えたい。

授業の主題、到達目標についても、第一回目の講義でプリントまでして、十分に説明しているにもかかわらず、それを把握していない学生が三分の一近くいるということは心外である。又授業内容が今後のC B T、国試に関係する内容だということ、比較的注意を傾けるが、それ以外の理念、人間の生き方に関する内容であると、無駄であると思うのであろうか、それについてもう少し学生の気質を知ることと、教員の側の説得力が必要だと感じた。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 9 月 22 日、提出枚数：54

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.2

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	4.2
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.3
授業の準備がよくなされていたか	4.6
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.5
実習器具・材料は適切であったか	3.9
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.9
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.5
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.7
質問をしやすい雰囲気であったか	3.9
学生にとって適切な難易度であったか	4.4
学習意欲が刺激されたか	4.3
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.6
教育に対する熱意が感じられたか	4.5
総合的な評価	4.5

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

初めて学生による授業評価を受けたが、総合評価 4.5 と予想以上に高い評価であった。授業の準備、教材、話し方、専門家としての信頼度、教育に対する熱意など 4.5～4.6 であり、この評価には満足している。

実習はこの時点ではまだ行っておらず、実習に関する質問は除外して考えたい。

授業はひたすら話をする形で進めており、終了後に質問を受け付けているため、学生にとっては終始受け身型の授業である。「スライドやプリントを見ながら、聞いていれば分かる授業」を、自ら求めた結果としては満足である。今後、質問や発表の機会を与える参加型の授業を取り入れ、学生の理解度および評価がどう変わるかを追究してみたい。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 10 月 14 日、提出枚数：56

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.6

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	4.2
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.3
授業の準備がよくなされていたか	4.4
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.2
実習器具・材料は適切であったか	3.7
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.5
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.3
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.2
質問をしやすい雰囲気であったか	4.1
学生にとって適切な難易度であったか	4.2
学習意欲が刺激されたか	4.3
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.5
教育に対する熱意が感じられたか	4.3
総合的な評価	4.4

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

「総合評価」、「学問分野の専門家として信頼できたか」で、それぞれ 4.4, 4.5 と評価が高かったことに対して、非常に感激した。今後さらに評価を上げるよう努力するつもりである。

実習に関する項目の評価が低かったが、授業評価を実施した時期には、まだ、実習が始まっていないために、評価できなかったためだと思う。今後は、実習が始まる時期に授業評価を行うつもりである。授業に対する予習・復習がなされていないようであるが、特定のテーマを課して復習させる予定である。また、授業の最後に 10～15 分で解答する小テストを毎回実施しているが、それを利用して予習させる工夫を考えている。歯周治療の理論的背景として、基礎科目の復習をしながら進めているが、学生の評価が高く、臨床と基礎を結ぶ接点として、今後さらに充実させる必要を痛感した。質問しやすい雰囲気を作るために授業の進行ペースを少し落とした方が良いのかもしれない。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 10 月 18 日、提出枚数：60

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	3.0

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.6
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.7
授業の準備がよくなされていたか	4.0
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.3
実習器具・材料は適切であったか	3.9
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.1
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.4
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.7
質問をしやすい雰囲気であったか	3.1
学生にとって適切な難易度であったか	3.1
学習意欲が刺激されたか	3.3
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.0
教育に対する熱意が感じられたか	4.1
総合的な評価	3.7

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

今年度の改善点は、配布プリント（全部綴じればテキストになる）の鮮明化のためにワード原稿（PC プロジェクター提示データ収載）を人数分プリントアウトしたことと、問題解決型授業（提示課題のグループ発表・討論）を2回実施したことにある。

自由記載の割合が前2年度の2～3倍（約53%）であったが、CBT や国試対策を求める悲しい意見が現れた。良い評価は、授業の準備、PC プロジェクターによる提示、レポート作成とその内容への質問、グループ発表・討論に関してであった。良くない評価は、改善したプリントに関する意見（箇条書き、見づらい（写真を含む）、ポイントがわかりにくいなど）が多かったことと、教科書を指定してそれに従った授業を求めた意見（1名）を遺憾に思った。補助教材のさらなる改善を検討しているが、自作の質としては、技術的、時間的にほぼ限界と考え、印刷製本を業者委託して、有料配布する場合の金額を学生にアンケートした結果、2,000～3,000 円、カラーなら 5,000 円位までであった。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 10 月 19 日、提出枚数：56

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.6

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.3
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.2
授業の準備がよくなされていたか	3.4
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.1
実習器具・材料は適切であったか	3.1
実習は授業内容の理解に役立ったか	2.9
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	2.7
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.0
質問をしやすい雰囲気であったか	2.9
学生にとって適切な難易度であったか	3.1
学習意欲が刺激されたか	3.0
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.2
教育に対する熱意が感じられたか	3.1
総合的な評価	3.0

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

講義は、終始パソコン (power point) を使用して説明しましたが、内容が多かったため、話すスピードも早くなり、理解しにくかったのではと思われます。内容を減らして、要点のみでも印刷物を配布するようにしたいと思います。ポイント部分では何回か、後ろの席で聞こえるか、スライドが見えるか等確認し、大丈夫とのことでしたが、声の大きさやトーンを変えたり、スピードを落として、要点が伝わりやすくなるよう心がけたいと思います。

なお、“CBT や国試を意識した講義にしてほしい”という声には、いろいろな意味で考えさせられました。

実施日：2005 年 10 月 26 日、提出枚数：58

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.4

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.8
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.0
授業の準備がよくなされていたか	4.2
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.8
実習器具・材料は適切であったか	3.7
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.8
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.0
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.9
質問をしやすい雰囲気であったか	3.6
学生にとって適切な難易度であったか	4.1
学習意欲が刺激されたか	4.1
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.2
教育に対する熱意が感じられたか	4.1
総合的な評価	3.9

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

学習意欲が刺激されたに対し、4.1 の評価だったのは良かったのではないだろうか。一方的な授業にならないように心がけたのが良かったと思われる。

字が小さすぎたとのコメントを頂いた。途中、後ろの席の学生に3回問うたが、見えるとの返事で見えないとの返事ではなかったので、授業を進めたが、実際とは違っていたので、そうだったのかと驚いてしまった。学生は、遠慮したのか、正直に言えないのかそういうものなのだと実感した。次回からは、字を大きくし、学生の返答を当てにしないようにしなければならない。配布プリントの要望に関しては、控えたいと考えている。配布するような内容が多いわけではなく、一部の学生によるコメントのようである。配布することで、授業の集中力が失われる可能性が懸念されるからである。ノートを取るに十分な時間があり、話もゆっくりであったとの評価も頂いているため、配布プリントに関しては控えたい。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 11 月 1 日、提出枚数：60

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.8

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	4.5
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.6
授業の準備がよくなされていたか	4.6
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.5
実習器具・材料は適切であったか	3.8
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.9
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.5
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.7
質問をしやすい雰囲気であったか	4.3
学生にとって適切な難易度であったか	4.4
学習意欲が刺激されたか	4.4
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.4
教育に対する熱意が感じられたか	4.6
総合的な評価	4.6

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

学部学生に対する講義は、昨年度に続き2度目であり未だ戸惑いもあったが、逆に学生がその熱意を感じ取ってくれたようで、予想外の高い評価に驚かされた。しかしながら、喜ばしい反面、まだ最初の評価であるのでこれを維持することの大変さを実感している。

自由記載欄のコメントには、『ただ説明するだけでなく考える機会を与えてもらったので良かった』、『CBT や国家試験を視野に入れた授業で良かった』、『授業後の小テストは理解度のチェックと共に要点のまとめになるので良かった』などプラス評価があったが、『小テスト前に暗記する時間がほしい』、『復習のために、小テストは次の授業の最初にしてほしい』などマイナス評価もあったため、時間配分などを再考し改善していきたいと考えている。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 11 月 30 日、提出枚数：57

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.6

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.9
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.9
授業の準備がよくなされていたか	4.2
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.1
実習器具・材料は適切であったか	3.8
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.9
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.5
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.7
質問をしやすい雰囲気であったか	4.3
学生にとって適切な難易度であったか	4.4
学習意欲が刺激されたか	4.4
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.4
教育に対する熱意が感じられたか	4.6
総合的な評価	4.6

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

授業評価は今回がはじめてであったが、概ね良好な評価が得られたと思われる。授業の最初に、授業の概略(項目のみ)を記載したプリントを配布したが、それが好評であった。授業は PC により行ったが、スライドの内容、進め方等についても概して良好な評価を得たが、学生によっては部分的に進め方が早いとの指摘や、字が小さく見づらかったなどの意見もあった。スライドにもう少し工夫が必要と思われ、改善を行う。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 12 月 7 日、提出枚数：57

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.8

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.9
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.0
授業の準備がよくなされていたか	4.0
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.9
実習器具・材料は適切であったか	3.8
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.6
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.8
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.7
質問をしやすい雰囲気であったか	3.7
学生にとって適切な難易度であったか	3.9
学習意欲が刺激されたか	3.7
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.1
教育に対する熱意が感じられたか	3.8
総合的な評価	3.9

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

前回の授業に比べ、評価が低下した。原因としては、前回の授業に比べ、内容が多く、スライド数も多かったためと思われる。自由記載欄中にも、スライドが早くノートがとれなかったとの意見が散見された。スライド、講義内容を見直し、講義時間内に学生がノートを取り、理解できる様に改善する必要があると思われた。ただ、学生によっては、スライドの早さ等問題なくわかりやすかったとの意見であった。学生のレベルにも差があると思われ、どのレベルに合わせて今後授業を行うべきかも、今後の検討課題であると思われる。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.6

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.9
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.9
授業の準備がよくなされていたか	4.0
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.0
実習器具・材料は適切であったか	4.2
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.3
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.0
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.8
質問をしやすい雰囲気であったか	3.8
学生にとって適切な難易度であったか	4.1
学習意欲が刺激されたか	4.0
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.3
教育に対する熱意が感じられたか	4.1
総合的な評価	4.1

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

今回 1 人の学生が 2 項目について 2 の評価を与えた。それはシラバスに沿った授業かという項目と、質問の機会が与えられたかという項目である。全学生の評価に於いても、この 2 項目は低い評価であった。確かにシラバスの順には沿って授業しているつもりであるが、本年は自身の病気で休講・補講を行ったりして、学生に迷惑を掛けた。また、例年授業の進行順はシラバスに沿わせているが、速度には違いが生じ、シラバスとはずれが出ている。質問については、授業時間の関係で講義中にはなかなか質問の機会を作れない。講義終了後の個人的な質問には答えているがそれだけではダメなようで、改善すべき課題である。昨年は、聞き取りやすい話し方の項目で評価 2 を与えられて愕然とし、本年は気にしつつ講義したのは効果があったようだ。

学生の自由記載は 2 名と少なかった。1 名は「板書が多くて記録しやすかった」ということで、この記載は例年あり、この方法は続けようと思う。もう 1 名は「国試対策となる講義をしてほしい」というもので、初めて講義を受けるこの時期にもはやこういう事を言うかと、すでにこの時期から国試のことが学生の関心事になっていることに時代の変化を感じると同時に、少し寂しくも感じる。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2006 年 1 月 6 日、提出枚数：29

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.3

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.7
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.7
授業の準備がよくなされていたか	3.8
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.8
実習器具・材料は適切であったか	3.9
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.8
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.8
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.6
質問をしやすい雰囲気であったか	3.7
学生にとって適切な難易度であったか	3.9
学習意欲が刺激されたか	3.8
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.0
教育に対する熱意が感じられたか	3.8
総合的な評価	3.8

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

今年度より講義を担当する事になり、初めての授業であった。そのため、講義準備に時間をかけたつもりであったが、いざ講義をすると慣れないため、話し方に抑揚もなく説得力、面白みにかけた講義になったようである。また、プロジェクターなどの準備にも手間取った点は大きな反省点である。内容的には、シラバスにそった授業を心がけた。また、少し早いかもしれないが、現在の本学部の流れであろうと思われる国家試験も考慮にいれた授業を行った。4年生は初めてみる国家試験の問題と思われ多少は自分たちの置かれている状況を理解させる事が出来たかもしれない。今後は、歯科医学の知識を教えるとともに、歯科医療に情熱を持って診療していく姿勢を講義で教える事ができたらと思う。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.4

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	4.0
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.0
授業の準備がよくなされていたか	4.2
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.2
実習器具・材料は適切であったか	4.0
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.1
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.0
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.7
質問をしやすい雰囲気であったか	4.1
学生にとって適切な難易度であったか	4.3
学習意欲が刺激されたか	4.1
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.3
教育に対する熱意が感じられたか	4.2
総合的な評価	4.0

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

最も反省する点は、本年度も板書やプリントの説明をするばかりの一方向的な授業になってしまい、授業の途中で質問や発表をさせる機会を設けなかった点である。実際、休憩時間や授業終了後に数名の学生から質問を受けてそれぞれに回答しており、これを授業中に行っておれば他の学生たちにとって有意義であっただろうと反省している。来年度は、ここまで板書説明したらここで質問を受けるというように、強制的に質問時期を設定して臨みたい。板書中心の授業に関しては、下手な字や図であったにもかかわらずアンケート欄には概ね好意的な意見が多く、来年度もこの形式で授業を行っていこうと考えている。ただ、もう少しスピーディさがあっても良いのではという指摘もあり、図や文字の配置等を含む板書方法についてさらに工夫していく必要性を感じた。また、昨年度、指摘のあった『聞き取りにくさ』に関しては、可能な限りマイクを使うように努めたが、ハンドマイクは板書の時は使いづらく気が付けばマイク無しで話していることが多かった。ピンマイク等を使用すべきであったと反省している。視覚的な教材の提示には今年度よりパソコンを用いたが、プロジェクターの設置やパソコンとの接続に予想以上に時間がかかり、授業の開始時間が遅れてしまうことが多かった。操作に不馴れな点や機材の故障が主な理由ではあるが、第1、2講義室にもぜひともプロジェクターを常置していただきたい。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2006 年 1 月 26 日、提出枚数：54

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.4

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.9
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.1
授業の準備がよくなされていたか	4.3
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.2
実習器具・材料は適切であったか	3.8
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.0
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.4
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.2
質問をしやすい雰囲気であったか	4.2
学生にとって適切な難易度であったか	4.2
学習意欲が刺激されたか	4.0
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.4
教育に対する熱意が感じられたか	4.3
総合的な評価	4.2

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

本年度の私の講義は、諸般の事情から例年の半分の時間しか確保できなかった。このため複数のテーマを 1 回の講義に詰め込んだことは、学生の理解をいささか困難なものにしたと反省している。シラバスに授業内容が沿っていないとの指摘についても上記理由に拠るところが多いが、来年度は改善したい。

また、実習は授業内容の理解に役立ったかの項目が 4.0 であったことは、現在の時間割で実習と講義の日が別になっていることも一因だと思われる。もし、午前中が講義、午後同科目の実習であれば両者の相互理解を高めることが容易になるものと期待される。平成 18 年度入学生からは講義、実習が同日で行なえる時間割となる予定だが、それまでの入学生についても導入して欲しい制度である。

実習器材は適切であったかの項目が最低の 3.8 となったことは、学生からの実費徴収をできるだけ行なわずに実習を行なう限界に来てしまったように思われる（顎模型についてはすでに学生負担で購入させている）。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2006 年 1 月 30 日、提出枚数：47

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.4

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.7
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.8
授業の準備がよくなされていたか	3.9
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.8
実習器具・材料は適切であったか	3.6
実習は授業内容の理解に役立ったか	3.6
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.7
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.2
質問をしやすい雰囲気であったか	3.3
学生にとって適切な難易度であったか	3.7
学習意欲が刺激されたか	3.6
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.9
教育に対する熱意が感じられたか	3.7
総合的な評価	3.7

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

講義内容に対して講義時間が少ないのを承知で講義したため、進行が早かったとの意見があったのと「質問の機会を与えられたか」、「質問をしやすい雰囲気であったか」の評価が、他の評価に比べて低かった。講義時間が短いために要点を簡潔にして、スムーズに進行できるよう準備したが、理解力の少ない学生への配慮をもう少し行わないといけないようである。

準備には時間を費やしたが、液晶プロジェクターのみを使用した講義であったので、時間との関係で仕方がないかと考えたが、講義時間と内容の検討を今後行うべきである。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	4
この授業の予習・復習を行ったか	2.6

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	4.1
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.3
授業の準備がよくなされていたか	4.4
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.4
実習器具・材料は適切であったか	-
実習は授業内容の理解に役立ったか	-
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.3
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.5
質問をしやすい雰囲気であったか	4.4
学生にとって適切な難易度であったか	3.9
学習意欲が刺激されたか	4.2
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.6
教育に対する熱意が感じられたか	4.6
総合的な評価	4.4

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

授業最初の評価が予想外に高かったため、その評価を維持することが可能かと悩みつつ、とにかく自分のスタイルで授業を行った結果、総合的な評価で 0.2 ポイントのダウンで押さえることができ安堵している。しかしながら、『学生にとって適切な難易度であったか』と『シラバスに沿った授業がなされたか』の評価が低く、さらに検討すべき余地があると考えさせられた。

授業の一部に、『問題探求・問題発見能力の育成』や『臨床推論、診断の進め方の技術の修得』を目的として、PBL テュートリアルを導入した結果、『考える機会があって良かった』、『発表は大変だったが役に立った』などプラス評価が多かった。しかし、『グループ発表ではなく個人発表が良い』というマイナス評価も見受けられた。さらに、授業最初の評価で『小テスト』に関して不満が多かったが、最後の評価でも『小テストの時間を講義にあててほしい』という意見が見受けられた。次年度はこれらの評価を参考に改善していきたいと考えている。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 6 月 3 日、提出枚数：57

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	5
この授業の予習・復習を行ったか	2.0

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.7
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.5
授業の準備がよくなされていたか	3.7
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.8
実習器具・材料は適切であったか	-
実習は授業内容の理解に役立ったか	-
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.7
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.1
質問をしやすい雰囲気であったか	3.3
学生にとって適切な難易度であったか	3.7
学習意欲が刺激されたか	3.6
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.1
教育に対する熱意が感じられたか	3.9
総合的な評価	3.8

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

今年度は昨年指摘のあった「視覚素材を用いた講義を」という要望に応えるべく、講義内容を一新させた。丁度教科書が改訂され、講義内容を見直すには良い機会だったと思う。しかし、そのためこちら側の時間的余裕が無かったためか、学生への質問などの時間が減少したことが授業評価にも現れていると思う。来年度は講義内容をより充実させるべく努力したいと思う。

ただ、学生側も予習・復習が無いためか、試験結果は散々で、内容が十分理解できたとは言えず、来年は復習を促すための練習問題を作成する事も検討している。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	5
この授業の予習・復習を行ったか	2.2

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.9
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.8
授業の準備がよくなされていたか	3.8
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.9
実習器具・材料は適切であったか	-
実習は授業内容の理解に役立ったか	-
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.7
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.5
質問をしやすい雰囲気であったか	4.2
学生にとって適切な難易度であったか	4.1
学習意欲が刺激されたか	4.4
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.7
教育に対する熱意が感じられたか	4.8
総合的な評価	4.3

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

「教員が学問分野の専門家として信頼できたか」「教育に対する熱意が感じられたか」「学習意欲が刺激されたか」等の項目は、例年同様、高い評価を受けた。例年と比べて評価が上がった項目として、「質問や学生による発表の機会を与えられたか」「質問をしやすい雰囲気であったか」などがある。これは昨年の授業評価を踏まえて改善に努力した結果である。逆に、「シラバスに沿った授業がなされたか」「授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか」などの項目は評価が下がってしまった。これは学生へのシラバスの配布時期と授業の実施時期が3年間もずれているということにも原因があると思われる。学生にはそのような経緯を説明して昨年度のシラバスをコピーして配布した。しかし、今年度のシラバスはコンピュータ入力方法だったので、授業が始まる時期に学生は入力内容をまだ知らないと言っていた。授業中に確認するように言ったのだが、今年の授業は国試早期化で早く終わってしまい、学生は今年のシラバスを確認しないまま授業を受けたのであろう。コメント欄には、早口である、黒板の字がきたないといった意見が記載されていたので、今後は、今まで以上にプリントやパソコンを活用していこうと思う。また、講義内容が生理学、解剖学、生化学など他の科目にも及んだこと、国試対策の話をしたことなどはよかったとの意見が多かったので、これからも続けていきたい。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	5
この授業の予習・復習を行ったか	2.3

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	4.1
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.1
授業の準備がよくなされていたか	4.3
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.3
実習器具・材料は適切であったか	3.4
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.1
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.4
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.1
質問をしやすい雰囲気であったか	3.8
学生にとって適切な難易度であったか	4.0
学習意欲が刺激されたか	4.1
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.5
教育に対する熱意が感じられたか	4.4
総合的な評価	4.3

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

「学問分野の専門家としての信頼性」が 4.5、「総合評価」が 4.3 であり、全体としてはまずまずの評価であった。

その中で「実習器具・材料」の項目は 3.4 と極端に低かった。これは使用した第 3 実習室の機械器具が創設後、一度も更新されていないために故障が多く、実習遂行に多大な支障が発生したためと思われる。これは個人の授業評価ではなく実習環境全体の問題であるため、教育委員長やこの実習室を使用する他科の教授とも対応策を議論したが、数千万円の支出が予想され、歯学部単独予算では改善不可能なため、他の大規模予算の申請を模索することになった。

また、「質問をしやすい雰囲気」は 3.8 でありやや低かった。今回より 5 年生前期の講義は 7 月 8 日までの 3 か月間で、本試験を含めて終らせなければならなかった。さらに講義時間数も減少したので、短期間、短時間で多くの内容を教授しなければならず、急ぐあまりにこのような結果になったものと思われる。授業計画にゆとりが必要である。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 7 月 1 日、提出枚数：14

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	5
この授業の予習・復習を行ったか	2.5

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	4.0
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.1
授業の準備がよくなされていたか	4.1
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.9
実習器具・材料は適切であったか	3.9
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.1
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.1
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.1
質問をしやすい雰囲気であったか	4.0
学生にとって適切な難易度であったか	4.1
学習意欲が刺激されたか	4.1
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.2
教育に対する熱意が感じられたか	4.1
総合的な評価	4.3

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

記入学生に関する事項：予習・復習が 2.5 と低かったが、授業効果を最大限に上げるために学生の予習・復習できるように工夫したい。具体的には、講義の最初と最後に予習・復習に関する時間を設けて具体的な指導を行うことを考えたい。

対象教員の授業に関する事項：おおむね 4 以上である程度の評価が得られたものと考えられる。評価の低かった教材について、講義資料の配布はしていないが、次年度は考えてみたい。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 7 月 4 日、提出枚数：50

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	5
この授業の予習・復習を行ったか	2.2

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.9
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.8
授業の準備がよくなされていたか	3.8
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	3.7
実習器具・材料は適切であったか	-
実習は授業内容の理解に役立ったか	-
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.4
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.6
質問をしやすい雰囲気であったか	3.9
学生にとって適切な難易度であったか	4.1
学習意欲が刺激されたか	3.9
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.3
教育に対する熱意が感じられたか	4.0
総合的な評価	4.0

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

担当講義開始の時点で、講義予定を口頭で概説したが、明確に伝わらなかった学生もあり、来年度は注意したい。

講義方法は、教科書に沿って説明し、必要に応じて板書した。また、その日の講義の後半約13分の1はスライドを映して視覚化に努めた。しかし、学生のコメントではこれをパワーポイントなどのプレゼンテーションソフトで行い、なおかつその同じ内容を配布資料として希望するものがいた。この方法を採用しなかった点をもって「教材の準備が適切であったか」の項に厳しい判定をしたものがいたが、承服しがたい。

また、重要な点や国試に出題されそうな点を明確にしてほしいとの要望があったが、1コマの講義中はずっと重要なことをはなしているつもりであり、講義は国試対策であるかのような考え方をしているものがあることが残念である。

学生による授業評価票 集計結果
実施日：2005 年 7 月 4 日、提出枚数：60

歯学部 FD 委員会

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	5
この授業の予習・復習を行ったか	2.4

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	4.2
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.2
授業の準備がよくなされていたか	4.5
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.4
実習器具・材料は適切であったか	-
実習は授業内容の理解に役立ったか	-
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4.7
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.0
質問をしやすい雰囲気であったか	4.1
学生にとって適切な難易度であったか	4.3
学習意欲が刺激されたか	4.3
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.5
教育に対する熱意が感じられたか	4.3
総合的な評価	4.4

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

今回初めての講義で多くのとまどいもあり、必要事項を伝えるのに精一杯で私自身に余裕が無かったのが最大の反省点として挙げられると思います。講義の内容は全てプリントして配布し、説明にはスライドを用い、学生は板書に追われることなく講義を受けることの出来るように工夫しました。講義内容が全てプリント資料として残るため、やりやすかったという肯定的な意見がある反面、内容量が多かったという意見や、質問や発表機会が少なかったという意見もあり、資料や講義内容をよりえりすぐる必要や、講義中には常に学生に問いかけ、学生参加型の講義にすべく努力する必要があるように感じました。

■ 記入学生に関する事項

記入者の学年	5
この授業の予習・復習を行ったか	2.3

■ 対象教員の授業に関する事項

シラバスに沿った授業がなされたか	3.9
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	3.7
授業の準備がよくなされていたか	4.3
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.3
実習器具・材料は適切であったか	4.1
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.5
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.9
質問や学生による発表の機会を与えられたか	3.9
質問をしやすい雰囲気であったか	3.8
学生にとって適切な難易度であったか	4.0
学習意欲が刺激されたか	4.0
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	4.4
教育に対する熱意が感じられたか	4.3
総合的な評価	4.3

■ 自己分析評価や具体的に改善した点

学生の評価結果をみて、概ね教員の授業の方法が学生によく理解され、学習効果をあげていると少し安心した。しかし、いくつかの点では教員の意図が学生の学習に十分に反映されていないものが見られた。学生に考えさせる授業を目指してこれまで行ってきたが、以下の点に改善を加えて、更なる向上に努めたい。

- 1) 授業内容についての到達目標を明確に示し、教員が学生に要求する学習レベルを明確にする。
- 2) 授業材料はこれまで通りプリント、スライドを中心に準備するが、新たに関連科目の内容を補足して疾患の理解を容易にするよう変更している。
- 3) 限られた時間内で学生の発表や質問の時間を増やすため、授業内容をできるだけ詳細にプリントに凝縮して示すよう変更している。
- 4) 講義と実習の時間配分、内容配分に工夫して、限られた時間内での教育効果の向上を図っている。

また、学生へ以下のことを要望する。

- 1) 双方向の授業を行うための学生の役割を理解し、授業時間を有効に活用することを考えてもらいたい。

2005 歯学部 FD ワークショップ記録

2005. 11. 16. 開催

歯学部 FD 委員会

2005歯学部FDワークショップ スケジュール

■ 目的： 歯学部FD委員会では下記のプログラムで歯学部FDワークショップを開催します。今回は歯学部にとって重要な課題のうち3つのテーマについて、授業を直接担当している教員はもとより全ての教員が参加して検討し、問題点を共有すると共に、今後の授業や教育の改善に結びつく具体的な方略を探る事を目的とします。

■ 日時：2005年11月16日（水）18:00～20:00（約2時間）

■ テーマ：

テーマ1：学生による授業評価を教育改善につなげるための具体的な方法の検討。

テーマ2：教育成果（進級、国家試験等）を改善するための具体的な方法の検討。

テーマ3：授業公開・参観による授業評価を実施するための具体的な方法の検討。

■ 5グループ（各8～10人）：各自の希望テーマによる編成。

■ スケジュール：

18:00 オリエンテーション（10分）：学部長挨拶、進行（FD委員会仙波）。

18:10 各部屋へ移動

18:15 グループ討論（50分）

・各グループ内で進行係、記録係、発表資料作成係、発表係の各係4名を決める。

・初めに時間配分を決めてから、討論に入る。・討論記録を提出する。

19:05 グループ発表（各5分）：パワーポイント、OHP等を使用。時間厳守。

19:35 全体討論（20分）：進行（FD委員会仙波）。

19:55 閉会（5分）：学部長挨拶

■ 場所： 歯学部講義棟

第4講義室：全体会、Aグループ。

第1講義室：Bグループ。

第2講義室：Cグループ。

第3講義室：Dグループ。

第4実習室：Eグループ。

■ 報告書：歯学部FD委員会で取りまとめ、Webおよび報告書で報告、公開する。

■ 準備するもの：

・メモのための筆記用具。各グループ1台の発表用のノートパソコン（PowerPoint）。

・発表用のOHPシート、マジック等は用意しますが、出来るだけPowerPointなどを用いてコンピュータで発表して下さい。※ コンピュータについては事前にFD委員会から調整のご連絡を差し上げます。

・第4講義室に入室する為のインテリジェントカード（各講座1枚配布済み）および、各自の学術情報基盤センターID/パスワード。

・討論に必要な資料などがありましたら、各自、事前にご準備下さい。

2005 歯学部 FD ワークショップ グループ構成

職 名	氏 名	テーマ	グループ	役 割
教 授	長岡 英一	1	A 第4講義室	
講 師	梶原 和美	1	A 第4講義室	
講 師	松山 孝司	1	A 第4講義室	
講 師	川島 清美	1	A 第4講義室	
講 師	町頭 三保	1	A 第4講義室	
助教授	長岡 成孝	1	A 第4講義室	
助教授	三浦 裕仁	1	A 第4講義室	
助 手	吉田 礼子	1	A 第4講義室	
助 手	山中 淳之	1	A 第4講義室	
助 手	大西 佳子	1	A 第4講義室	
教 授	和泉 雄一	1	B 第1講義室	
教 授	原田 秀逸	1	B 第1講義室	
講 師	小椋 幹記	1	B 第1講義室	
講 師	西 恭宏	1	B 第1講義室	
助教授	濱野 徹	1	B 第1講義室	
助教授	佐藤 強志	1	B 第1講義室	
助教授	田畑 純	1	B 第1講義室	
助教授	森主 宜延	1	B 第1講義室	
助 手	川本 真一郎	1	B 第1講義室	
助 手	村上 格	1	B 第1講義室	
教 授	於保 孝彦	2	C 第2講義室	
教 授	杉原 一正	2	C 第2講義室	
教 授	島田 和幸	2	C 第2講義室	
講 師	吉原 俊博	2	C 第2講義室	
助教授	佐藤 友昭	2	C 第2講義室	
助教授	大西 智和	2	C 第2講義室	
助 手	比地岡 浩志	2	C 第2講義室	
助 手	永田 順子	2	C 第2講義室	
助 手	坂東 健二郎	2	C 第2講義室	
助 手	重田 浩樹	2	C 第2講義室	
教 授	宮脇 正一	2	D 第3講義室	
教 授	伴 清治	2	D 第3講義室	
教 授	中村 典史	2	D 第3講義室	
講 師	末永 重明	2	D 第3講義室	
助教授	瀬戸口 尚志	2	D 第3講義室	
助教授	田松 裕一	2	D 第3講義室	
助 手	柿元 協子	2	D 第3講義室	
助 手	鎌田 ユミ子	2	D 第3講義室	
助 手	別府 真広	2	D 第3講義室	
助 手	中山 歩	2	D 第3講義室	
教 授	植村 正憲	3	E 第4実習室	
教 授	梶山 加綱	3	E 第4実習室	
教 授	岸 文雄	3	E 第4実習室	
講 師	佐藤 節子	3	E 第4実習室	
助 手	吉田 雅司	3	E 第4実習室	
助 手	國芳 秀晴	3	E 第4実習室	
助 手	河野 一典	3	E 第4実習室	
助 手	丸山 浩美	3	E 第4実習室	
助 手	田中 康一	3	E 第4実習室	
助 手	小野原 昌弘	3	E 第4実習室	
教 授	西川 殷維			学部長
教 授	仙波 伊知郎			総合進行

2005歯学部FDワークショップ 各テーマの論点の整理

限られた時間の中で、今後の教育改善につながる建設的な議論を行うために幾つかのテーマを設けましたが、さらに、各テーマにおける論点を事前にある程度、整理して置きたいと思います。事前の情報提供は自由な議論を妨げる、というデメリットもありますが、各グループでの議論を進める前に、論点を共有し各自が事前に考えて来る事により、円滑な、また、建設的な議論が出来るものと考えました。もちろん、各テーマ自体も独立したものではなく、教育改善という観点では共通する点も多く、また、ここに挙げた観点以外の発想や問題点も各グループでの議論を通じて出てくるものと思います。あくまで、事前に考える際の参考としてお考え頂ければ幸いです。

■ テーマ１：学生による授業評価を教育改善につなげるための具体的な方法の検討。

学生による授業評価は「評価」という事に関して、そもそも学生に評価する能力があるのか、といった議論や、授業は誰が「評価」出来るのか、といった絶対的な「評価」の可能性が問題にされる事もあります。「評価」という言葉を使わずに「アンケート」を用いる場合もあります。しかし、学生による授業評価を行う目的は授業改善にあり、その評価内容が教員の個人評価に直結するものではありません。教育改善に結びつけるための方法の一つです。

教育改善に関する活動を教員が行っているか否か、という活動性については個人評価の対象にもなるのですが、最も大切な事は、その様な活動によって教育改善が実際に成されている、あるいは教育改善に結びつく活動になっている、という事です。今回は、「評価」の可能性ということより、学生による授業評価を教育改善に結びつけるための、具体的な方法について検討して頂きたいと思います。

また、学生による授業評価は学生との双方向的な授業を実現するための手法の一つでもあります。双方向的な授業を実現するためには、一方向になりがちな講義だけの授業形態だけでなく、多様な授業手法を持つ事が必要でしょう。その様な手法としてコミュニケーションツールの開発も必要でしょう。この様な観点からも、現在歯学部で行っている学生による授業評価の方法の改善についても検討して頂きたいと思います。

■ テーマ２：教育成果（進級、国家試験等）を改善するための具体的な方法の検討。

本来の教育の成果は、単に留年率や国家試験の合格率などだけで計れるものではありません。しかし、第三者からは表面的結果とはいえ数字で表され、判り易いことから、常に取り上げられる数値です。共用試験や国家試験など、全国共通の比較可能な試験制度を持つ医歯系の学部では、学部教育が受験塾と化しても良いのか、本来の教育を目指してこそ各試験もクリアでき、初めから試験だけを考えていては元も子もなくなるのではないかなど、現実的な結果と目指すべき教育目標との間での、様々な葛藤があります。

また、入学時の成績は、これらの資格試験の結果とは必ずしも相関せず、入学後の教育に問題があると考えられています。現在の入試制度では、入学後の学修力を十分に計れていないのではないかなという問題もありますが、今回は入学選抜方法ではなく、入学後の教育について検討して頂きたいと思います。一方、学生総数が少ない歯学部では少人数の留年等でも、これらの数値が大きく変動します。70-80%の学生は現在でも成果を挙げているのですが、問題は100%にならない所にあるとも云えます。多様な学生に対応するためのきめ細かな教育方法についても検討して頂きたいと思います。

さらに、歯学部では今年度から6年生を対象に国家試験受験に対応する為にグループ学習・チューター制を試行していますが、入学後から卒業に至るまでの各教育課程での方法や、基本的な教育体制に関する事などについても検討して頂きたいと思います。

■ テーマ3：授業公開・参観による授業評価を実施するための具体的な方法の検討。

学生による授業評価と共に、教育改善の為に、教員による授業評価として、授業公開・参観の方法が検討されています。全学的にも教育研究評議会で全学的実施義務が決定され、現在、教育センターFD委員会を中心に実施方法が検討されています。全学的に実施するとしても、教育現場である各部局（共通教育も一つの部局と考えられる）において実現可能な方法が検討されなければならないものと考えられます。

さらに、学生による授業評価と同様に、この様な活動を教育改善に結びつける為の方法も併せて検討する必要があります。授業のあり方には絶対的な、また、これが正解という様な画一的なものがある訳ではありません。しかし、現状を評価し、改善する活動を行う際には、目指すべき姿を描いて目標を持つことも大事だと考えられます。また、この目標は単一ではなく、複数の観点を持ち、多様な授業形態を実現する方法を開発、共有することが大事だと考えられます。

今回は、これまで歯学部では行われていない授業公開・参観について、実施するための具体的な方法を検討して頂きたいと思います。実施する際の時期や点検、評価の方法など、いつ、誰が、どの様にして行うのか、という具体的な方法について、また、実施に伴う問題点について検討して頂きたいと思います。

■ 総合発表時の注意点

- ・時間を厳守して下さい。発表は5分間です。
- ・質疑・討論は各グループの発表後にまとめて行います。
- ・出来るだけパワーポイントなどを用いて、コンピュータで発表して下さい。
- ※ 例えば、
 - ・初めに、テーマを示す。
 - ・次に、検討した論点（問題点）を列挙する。
 - ・次に、各論点についての検討事項を列挙する。
 - ・最後に、具体的な方法や施策などを示す。など、判りやすくまとめて発表して下さい。
- ・記録用紙に討論記録を書いて提出して下さい。

グループ名 : A B C D E
テーマ : 1 2 3

進行係氏名 :

記録係氏名 :

発表係氏名 :

検討内容 :

2005 歯学部 FDWS (2005. 11. 16) 事後アンケート

歯学部 FD 委員会

※ 該当する数字を○で囲んでください

■ 参加したテーマ： 1 2 3

■ 今回のワークショップに参加して、

＜そう思わない・・・・・・そう思う＞

- | | | | | | |
|----------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 組織的活動として有意義であったか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 企画内容は適切であったか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 時間、場所等は適切であったか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 個人的に成果は得られたか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 今後もこの様な活動は必要か。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

6. 上記の項目や、その他の反省点、改善点などがあれば、自由にお書き下さい。

グループ討論のまとめ

全体討論発表資料

A グループ



B グループ



C グループ



D グループ



E グループ



2005 歯学部 FDWS 全体討論

(2005. 11. 16)



テーマ1:

学生による授業評価を改善につなげるための
具体的な方法の検討

- 低い評価に対してその内容を学生が自由記載しないので、限界がある。
- 無記名より名前記載があった方がよい。責任を持たせる意味でよいが、遠慮して書けないなどの欠点がある。

•授業評価が、成績に関係しないことをインフォームしておく必要がある。無記名でもよい。

•学生のムードで評価に偏りがある。回答欄が5点は真ん中付近に集中してしまう。4点だと評価が散らばる。真ん中をなくす。

•質問項目ごとに評価の内容を設けて具体的に役立てる。

•自由記載は、良かった点をかいてもらうようにする方が反映される。

•授業に何を改善してほしいのかを役立てたい。

•教官の熱意が評価に影響しているようである。その熱意をどうつたえるか。

•評価のフィードバックは、授業終了ごとにすれば次の講義に役立てられる。

•自由記載のときに教官が質問を設けて記載してもらえば、真の評価が行える。

•点数を教官の評価に使わない。

B班の話し合いのポイント(課題1)

授業評価を行うことの評価

授業評価の方法

改善案

他の方法は

評価の時期

- 評価の時期
- 授業のはじめとおわり、途中、どれが効果的なのか？
- 国試の学年による評価
- 毎回行う？

評価票の妥当性

- シラバスに沿っているのか → 学生はシラバスを理解しているか？
- 専門性をどこまで追求すべきか。
- (おもしろい、興味ある)vs(ためになる、役に立つ)どちらがよいのか。

評価票の改善案

- カリキュラムに対する評価もあってもよいのでは。
- ネガティブな評価をいかに引き出すか。
- 逆に学生への要望を出すのはどうか？
- 5段階評価ではなく、毎回の授業の要点を書かせた方が改善に直結する？

質問させるにはどうするか

- 学生を否定しないことが大事
- 考えを引き出すような工夫
- 学生のモチベーションを高める工夫

新しい手法に対する評価をどうするか

- スライドやPCでのプレゼンに対する評価（メディアの活用方法の見直し）
- 評価する者の多様性、教育担当者の個性
- チュートリアル？

理念の問題、個性の問題

- 教育者の能力や手法の改善のためのワークショップなどが必要？

グループC

教育成果(進級、国家試験等) を改善するための具体的な方法の検討



データ分析

- ・留年が多いほど合格率が悪い
- ・年齢が高いほど合格率が悪い
- ・入学時の成績と合格率は関連がない
- ・3年次、CBT、OSCEの成績が悪いと合格率が悪い

Q: 留年はどの学年で多いか？

Q: 留年中に能力が落ちるのか、留年する学生に何か問題があるのか？

Q: 留年者の特徴は？

指示待ち人間が多い、レポートの考察が浅い、
勤勉さ、意欲が低い

→ 要するに意欲の問題？

- ・もともとモチベーションが低い学生が多いのか？
→ 入試制度の問題
(後期日程での入学者はモチベーションが低い)
- ・教員や講義が学生のモチベーションを下げている？
→ 桜ヶ丘デーやearly exposureなどを取り入れている
- ・留年時の過ごし方に問題がある？
→ 現在は、落とした科目だけ受ければよいシステム。
勉強しない癖がついてしまう

モチベーションを高めるために

1. モチベーション低下の要因について、
まずデータ収集と分析を行う
 - 1) アンケート、面接の実施
時期は？ 対象は？ → 共通教育時、留年経験者
 - 2) クラス担任による進路等のカウンセリングの実施
2. データをふまえて
 - 1) カリキュラムの見直し(教養部の単位)
 - 2) 転部制度の検討？
3. 教員のモチベーションを上げる具体的な方策
 - 1) 教育が評価されるシステム
自己評価、学生評価、同僚評価
 - 2) 実績として給与に反映

テーマ2:

教育成果(進級, 国試等)を改善
するための具体的な方法の検討

Dグループ

宮脇正一, 伴 清治, 中村典史,
末永重明, 瀬戸口尚志, 田松裕 一,
柿元協子, 鎌田ユミ子, 別府真広,
○中山 歩

検討した論点(問題点)

- 体制, 制度
 - 入試の方法
 - 試験制度
 - 進級制度

検討した論点(問題点)

- 学生
 - 低意が欲しい
 - 消極性
 - 勉強の仕方が分かっていない
 - 教員との間に壁
 - 物理など基本事項を知らない

検討した論点(問題点)

- 教員
 - 熱意
 - 教育技術
 - 学生との間に壁



論点についての検討事項

- 進級制度
- 履修済み制度の見直し
- 入学直後の動機づけが大切
- 意欲の出る講義を
- 早期に学生とのコミュニケーションをとる機会をもつ



論点についての検討事項

- 入学直後のモチベーションが大切
- 入試制度について
- 下層の学生にターゲットを絞る
- 上位学生に不満の出ないように



具体的な方法や施策

- 早い時期に学生の性向を把握
- 歯科臨床に早期暴露
- 小テストなどの利用
- メールアドレスを教えて質問を受ける
- 留年に変わる罰あるいは動機づけの方法を

テーマ3:授業公開・参観による授業評価を実施するための 具体的な方法の検討

目的

1. 学生の質の向上
2. 教官の質の向上
3. 社会への公開

具体的な方法

1. 時期

目的が明確になれば決まってくる

2. 誰が評価するか？

学生

一般的な人:内容の評価は出来ない

専門的な人(歯科・専門分野)

教官本人(他の授業の聴講を義務付ける)

3. どのようにして

サンプル授業:内容の良い点をアピール

E-learning:ITを利用

長所: 授業の見直し

欠点: 内容の実態 教室内の表現

親しく学生の指導:言葉使いや態度

4. 評価の仕方

無記名アンケート(学生・一般人・専門家・教官本人)

5. 問題点

評価者の質

授業がワンパターンなる可能性がある

フィードバックをどのようにするか

↓

ユニットリーダー

評価を総合的に解析して、より統合された授業を行う

現在の講座中心の歯学部授業では無理

2005歯学部FDWS事後アンケート

テーマ	組織活動	企画内容	時間場所	個人成果	今後活動	自由記載
1	3	3	2	4	5	学生教育改善に対する教員の意識向上の機会として意義のある場であったと思います。テーマが大きいので、短時間に進めるにはもう少しポイントを絞る事が必要だと思います。今回の問題提起を具体的にするためのFDを希望します。
1	4	3	2	2	4	学部内で他の教官の先生方と教育について話し合う機会は少ないと思うので、そう言う意味では有意義であった。ワークショップは有意義であると思うが、この結果がどの様に用いられるのか、明確にする必要がある。参加者が問題を共有することは大いに意義があるが、コラボレーションの成果を学部全体の教育力の向上にどの様につなげるのかが重要である。熱意だけでは教育効果が上がらないから、授業評価が必要ともいえるのではないかな。
1	4	4	4	4	4	教育に関する自由討論の場が必要と痛感した。
1	4	3	2	3	4	教育に対する教官のフルートーキングの場、時間を設ける。
1	5	5	5	1	5	この様な企画を頻回に行う必要があると思います。
1	3	4	4	5	4	ディスカッションの時間に比べ、テーマの設定範囲が広いので、ポイントを絞った方が時間のロスが少なくなると思います。個人的には他科の先生の意見等をお伺いできて、非常に有効でした。
1	4	3	5	5	5	テーマ2は、オリエンテーションでのプレゼンに引っ張られてしまった様に思います。分析を基に改善するという「しぼり」にかかっていた様に思います。私としては「教官同士の要求などをもっと引き出すことも必要と思います。例えば「病理として組織学でここまで教えておいて欲しい」とか「補鉄としては歯の形態をもっとやって欲しい」とかです。こういう自助努力的な検討をもっと行って、各授業間の「ムダ」と「スキマ」を無くして行くことも、必要なのだと思います。
1	4	2	4	4	4	テーマが抽象的で話しにくいと思いました。例えば「アンケート内容はどうすれば良いか」などにした方が良かったと思います。実際に、討論はアンケートについてがほとんどだったと思います。日頃、交流のない先生方の考え方やコミュニケーション能力が少し分かり有意義でした。
1	2	2	4	3	3	テーマは一つに絞る。オリエンテーションが少ない(背景を理解できていない)。
1	5	5	4	4	5	討論時間がやや短いと思ったが、1時間以上では間延びするだろうし、難しいところ、参加者が慣れて要領が分かってきたら、適切な時間配分だろう。この様なworkshopは年一回などではなく、3-4か月に一回など定期的に開催すれば、はずみがつくと思う。他の講座の教員と授業について話し合い経験、他の教員の考えに触れる経験を持つことが有意義だった。
1	1	5	5	5	4	熱心な講座とそうでない講座、随分温度差があるように思いますが。このままでは歯学部全体の改善には余りつながらないと思います。
1	4	3	3	2	4	話をしていきますと、手法ではなく根本的な教育理念に達し、基本的問題から整理して行かなくては本当の解決に達しないのではないかという思いが強い。改善は歯切れが良く、大胆にしないと解決への道は見えないように思います。
1	5	5	3	4	4	評価の手法について考えるきっかけとなり、これまでに考えつかなかった方法に関する意見が聞けたので有意義であった。
1	4	5	2	3	5	部屋の設定であるが、広い部屋では細やかなディスカッションがし難い。ディスカッションする環境を配慮すべきです。
1	3	4	2	3	4	まず、ディスカッションの時間が短すぎると思う。ワークyそつぷの手法を理解していない方がおられる。事前にワークショップの方法について説明、周知をした方が良いのではないかと考える。進行の大切さを実感。
1	5	4	5	4	4	まとめる時間が足りなかった。今後も改善点を反映させる上で、この様な会議(ワークショップ)を開けていけたらと願います。
1	5	5	5	4	5	有意義であったが、私自身、準備不足を感じた。授業評価を知る機会をあたえていただけて有り難うございました。活発なディスカッションに感激しました。学生の「声」「意識」を感じながら、出来る所からやられるようになればと思う。2時間ではありましたが、楽しかったです。
1	4	3	2	3	4	要領よくまとめる技術的な改善、時間の余裕が必要。テーマの選択肢の問題。入試についての分析紹介は討論の方向をミスリードする。時間配分(発表の)が不公平。
1	4	4	4	4	4	
mean	3.8	3.8	3.5	3.5	4.3	
2	1	1	3	1	5	3テーマをまとめると、教育向上法と理解しました。しかし、現在の学生の状況に対する情報が少なすぎます。(例)学生は学問に対して興味があるか。何に対して不満なのか(教官?、教え方?)。将来に希望を持っているのか。等、現状をつかんで対策すべし。
2	4	4	4	5	5	意見を出しにくい面もあったが(構成メンバー)、思っていたより有意義な意見交換が出来た。進行役が発言者を指名して討論する方法が望まれる(一人の人が発言を繰り返す事が見受けられた)。

2	4	4	2	4	5	多くの教官と問題点の抽出、対策を考える上で、鹿大の抱える問題点が明確となってきた。そう言う意味で、有意義であった。反省点としては、参加者にもっと教官(実習や講義を行う者)に参加する様、義務化すれば良かった。時間ももっと充分に使って、じっくり話をして鹿大の教官全体が一体となって取り組む意識の共有を図れば良かったと思う。
2	4	3	5	3	4	この様なFDWSを行うと、仕事を多くしてしまう傾向があると思いますが、モチベーションを上げるには仕事を少なくするという議論も必要ではないでしょうか。
2	2	3	3	2	3	この様な活動が必要な教員と不必要な教員がいる。教員としてふさわしくない者に対して、この様な活動はどこまで効果があるのか？。極力、各教員の負担を減らして、強力なリーダーシップの下に、大学全体が本来の姿へ変化する必要がある。責任を取りたがらない教員が多すぎる。
2	4	4	4	4	3	今後もこの様な活動は必要だと思いますが、こういうワークショップに出席する教官はモチベーションを持っていると思います。問題は、やる気のない教官を抽出し、何らかの対処をすることが必要だと思います。
2	5	5	5	5	5	時間が足りないので、もう少し時間をかけて、土曜日曜でもやった方が良い。あるいは、年に何日か、この様なワークショップを開いて欲しい。
2	4	4	3	5	5	時間が短い。アンケート、データなどを取得後、もう一度やりたい。
2	5	4	3	4	5	時間的に不十分である点とテーマをより細かく絞って論議する必要があると思われた。
2	5	4	2	5	5	時間を多く取り、多数の教官が参加できるようにして頂きたい。
2	5	4	5	4	3	時間を厳守していただけたので、集中してディスカッションが出来た(これ以上は長くしないで欲しい)。教官間で話をする機会がすくないので、学生のためにも、この様な場をつくり、お互い協力できる体勢をつくることはよいと思う。
2	5	5	2	4	5	とても有意義な時間をすごせましたが、教官全員が参加していないのが残念でした。
2	5	5	3	4	5	初めての企画で、時間や内容が充分だったとはいえないが、これまで意見を交わしたことの無いメンバーでの討論で、非常に新鮮だった。テーマの内容から考えて、全教官が出席すべき会だと思います。科によっては全く出席していない所もあり、温度差を感じます。教官のモチベーションが低いのに、学生のモチベーションを上げられるのか疑問に思いました。
2	3	4	3	4	4	問題点のみでなく、その対策についての議論の時間が必要だと思います。その機会を設けてゆく必要があると思います。
2	5	5	5	4	4	有意義な時間をもてた。
2	4	5	4	3	4	
2	5	5	4	4	5	
2	5	4	5	5	4	
2	3	3	3	3	3	
2	4	4	3	3	5	
mean	4.1	4.0	3.6	3.8	4.4	
3	4	4	4	4	わからない	「問題意識を高める」という効果、ねらいは良いと思う。しかし、この様な会合で具体的な問題が解決するのは難しいかと思う。色々な具体案をラインアップする事に意義があるかも知れない。具体的には教授会、委員会が当たるのだろう。
3	5	5	3	5	5	教官同士の横のつながりや交流がこれまでなされてこなかったと痛感した。テーマ3のことを大規模に行うのも良いが、まずは学部内での教官同士の授業のブラッシュアップを図っていければ良いなと思った。寒かった。
3	4	4	4	4	2	自分の授業の評価を常に自分で評価できる様に担当教官はすべきであろう。評価に対するフィードバックの方法も具体化すべき。評価者の質も大事な要素である。学生自身が自分で自分を評価することも大切と思う。
3	3	3	2	4	3	総合討論において、歯学部が抱えている問題点が把握できた。場所について、冬場は寒くなりそう。
3	4	3	2	4	4	テーマ3に関しては、具体的な方法などに、実現するのには困難な事が多く含まれているように思われました。少し漠然として感を否めなかった様に思えます。
3	5	5	5	5	5	
3	5	5	3	4	5	
3	4	3	3	4	4	
mean	4.3	4.0	3.3	4.3	4.0	
47	4.0	3.9	3.5	3.8	4.3	

卒業時アンケート集計結果

平成18年4月11日
歯学部教育委員会・FD委員会

実施日：平成18年3月24日（金）

場所：卒業式会場（第3講義室）

対象者：平成17年度卒業生全員（61名）

回収数：無記名48名分

	鹿児島県	鹿児島以外の九州	左記以外
出身	16名	9名	23名
研修先	23名	4名	21名

結果

以下の18項目について歯科医師になる立場で、

5点：極めて有効、4点：どちらかといえば有効、3点：どちらとも言えない、2点：どちらかと言えば無意味、1点：全く無意味であった。

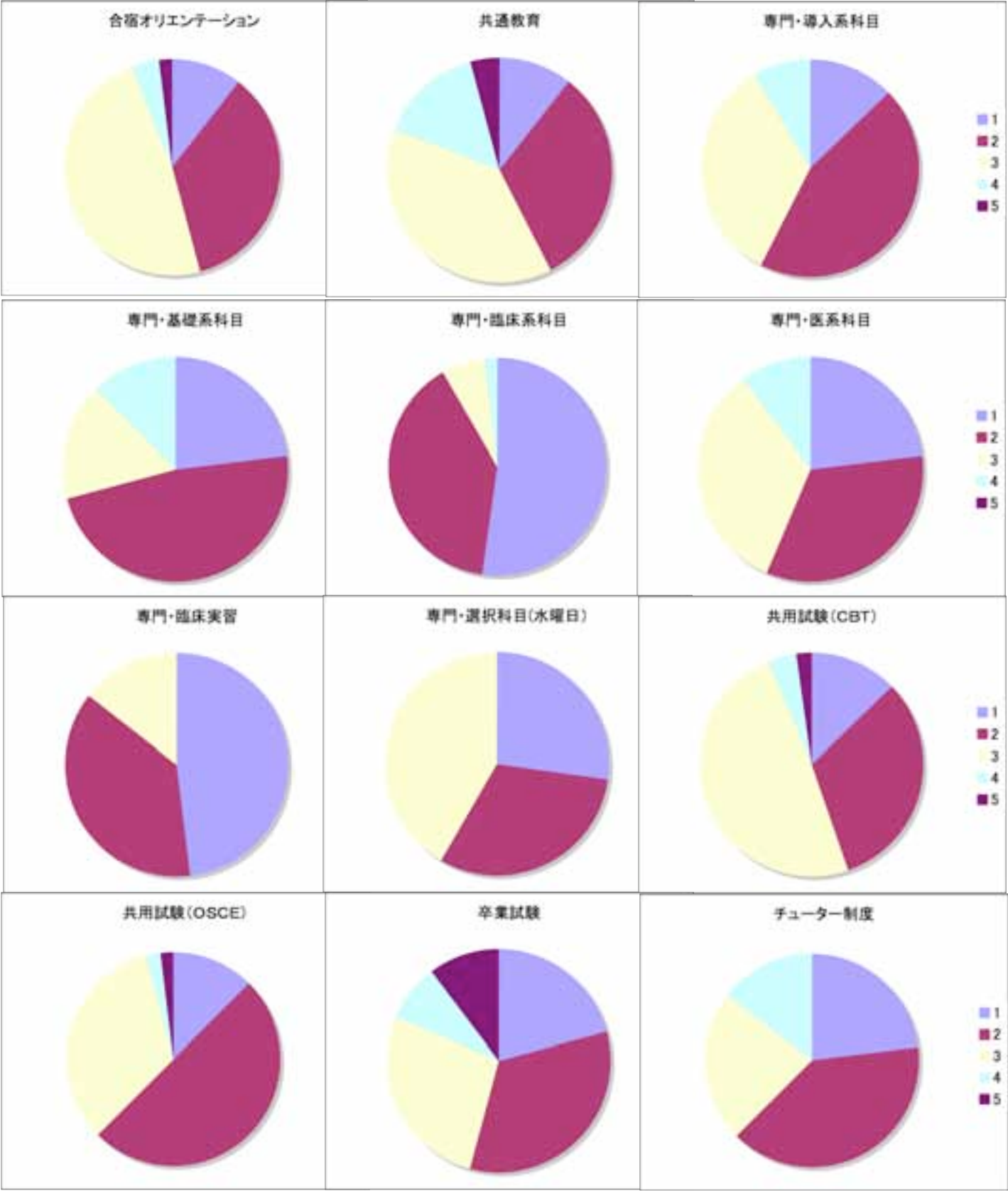
の評価を集計した。

項目	平均評価点
合宿オリエンテーション	3.48
共通教育	3.30
専門・導入系科目	3.62
専門・基礎系科目	3.81
専門・臨床系科目	4.42
専門・医系科目	3.69
専門・臨床実習	4.33
専門・選択科目(水曜日)	3.85
共用試験（C B T）	3.49
共用試験（O S C E）	3.69
卒業試験	3.46
チューター制度	3.71
課外活動(サークル等)	4.11
学術情報基盤センター	3.50
図書館	4.50
学習室（1，2示説室等）	4.23
学生控室	4.19
学務事務室	3.90

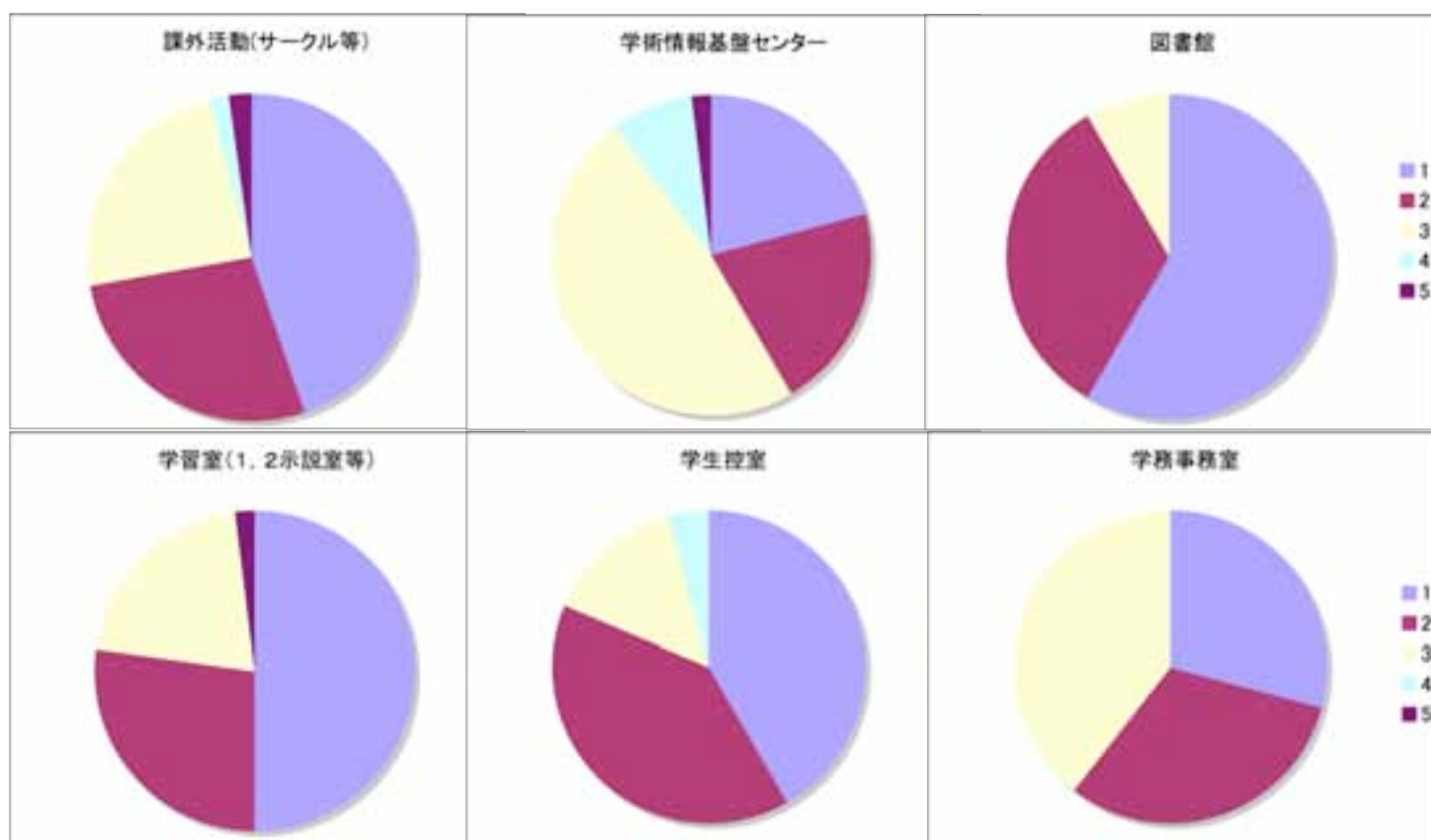
所見

卒業時の意見としては、当然予測されたことだが、直接関係する事項（専門・臨床系科目、専門・臨床実習、図書館、学習室、学生控室）に、評価が4点以上の高い評価をしている。また、課外活動(サークル等)は精神的な支えとして重要な活動であることがわかる。一方、試験という評価をうけるC B T、卒業試験および1，2年生時の経験となる合宿オリエンテーション、共通教育、学術情報基盤センターは3.5以下の低い評価となっている。合宿オリエンテーション、卒業試験、チューター制度など、教職員が苦勞して実施している行為に対する評価が比較的低いことに挫折感を覚えると同時に、一部の人は。歯科医師となるためではなく、国家試験に合格するための歯学部教育と解釈して答えていると推定されることが残念である。

教育事業／行事に関する事項（１：５点、２：４点、３：３点、４：２点、５：１点）



教育施設他に関する事項（１：５点、２：４点、３：３点、４：２点、５：１点）



卒業生がアンケートに記入した内容

1. 卒業試験は、そのやり方（問題etc）、時期などに大変問題があるように思います。
2. マークがでかくて書きにくいです。
3. 卒業試験は過去問よりも新作を増やした方がよいと思われる。
4. 解剖学実習はもう少しカリキュラムを作ってもらいたい。ただ時間を過ごすだけであった時間が長かった。自分で勉強法を練るのにも限界がある。
5. 今の卒試は全く意味がない。国試の勉強の妨げでしかなかったです。もっと考慮した卒試をすべきだと思います。
6. 医系の講義は形骸化してしまっている。存在自体は有意義であると思う。
7. 卒試が公平性に欠けていたのは非常に問題だと思う。
8. 卒業試験は国試とあまり結びつかなかった。
9. チューター制度について、チューターの先生から成績を渡されるということになると、先生の都合でなかなか自分の成績をもらえないということがあり、それならば一斉に発表された方が良かったと思います。お世話になり、ありがとうございました。
10. 医系科目は授業数が多すぎる。
11. チューター制度はチューターによって差がありすぎる。チューターがいてもいなくても勉強する人はするし、しない人はしないと思う。
12. 導入系科目は、どちらにしる各講座の講義の最初にイントロダクションをやるので、あまり意味がないと思う。

平成 1 7 年度 F D 活動経費決算報告書

学部等名	歯学部				
報告内容 (実施概要)	1. 学生による授業評価アンケート、卒業時アンケート、シラバスの充実、学部内報告書作成 (42,510円) 2. FD情報提供、e-learning試行用の学部内サーバー整備 (713,490円) 3. 学内FDワークショップ、共用試験 (CBT) 作問に関するFD講演会、チューター制学生指導体制の整備 (229,000円)				
金 額	物品等購入費	職 員 旅 費	講 師 等 旅 費	報 酬	要 求 額 計
	円 985,000	円 0	円 0	円 0	円 985,000
費 目 内 容	区 分	数 量	金 額	経 費 内 訳 等	
	物品等購入費		円		
		12	4,536	リサイクル鉛筆	
		1	1,519	ダブルクリップ	
		2	4,724	ペーパーステッチロック	
		6	15,750	マイリサイクルペーパー100	
		7	15,981	吊下げ名札	
		1	229,000	液晶プロジェクター	
		1	39,800	液晶ディスプレイ	
		1	23,740	無線アクセスポイント	
		5	13,450	ハブ	
		1	2,800	インターフェース	
		1	33,400	ネットワークハードディスク	
		2	43,700	ハードディスク	
		1	98,300	富士通スキャナ	
		1	36,400	MacOSX サーバー	
		1	302,400	ファイルメーカーサーバーアドバンスド	
		1	56,200	ウインドウズサーバースタANDARD	
		1	27,800	ビジュアルスタジオスタンダード	
		1	35,500	ターボリナックスサーバー	
	職 員 旅 費		円 0		
	講 師 等 旅 費		円 0		
	報 酬		円 0		
	計		円 985,000		